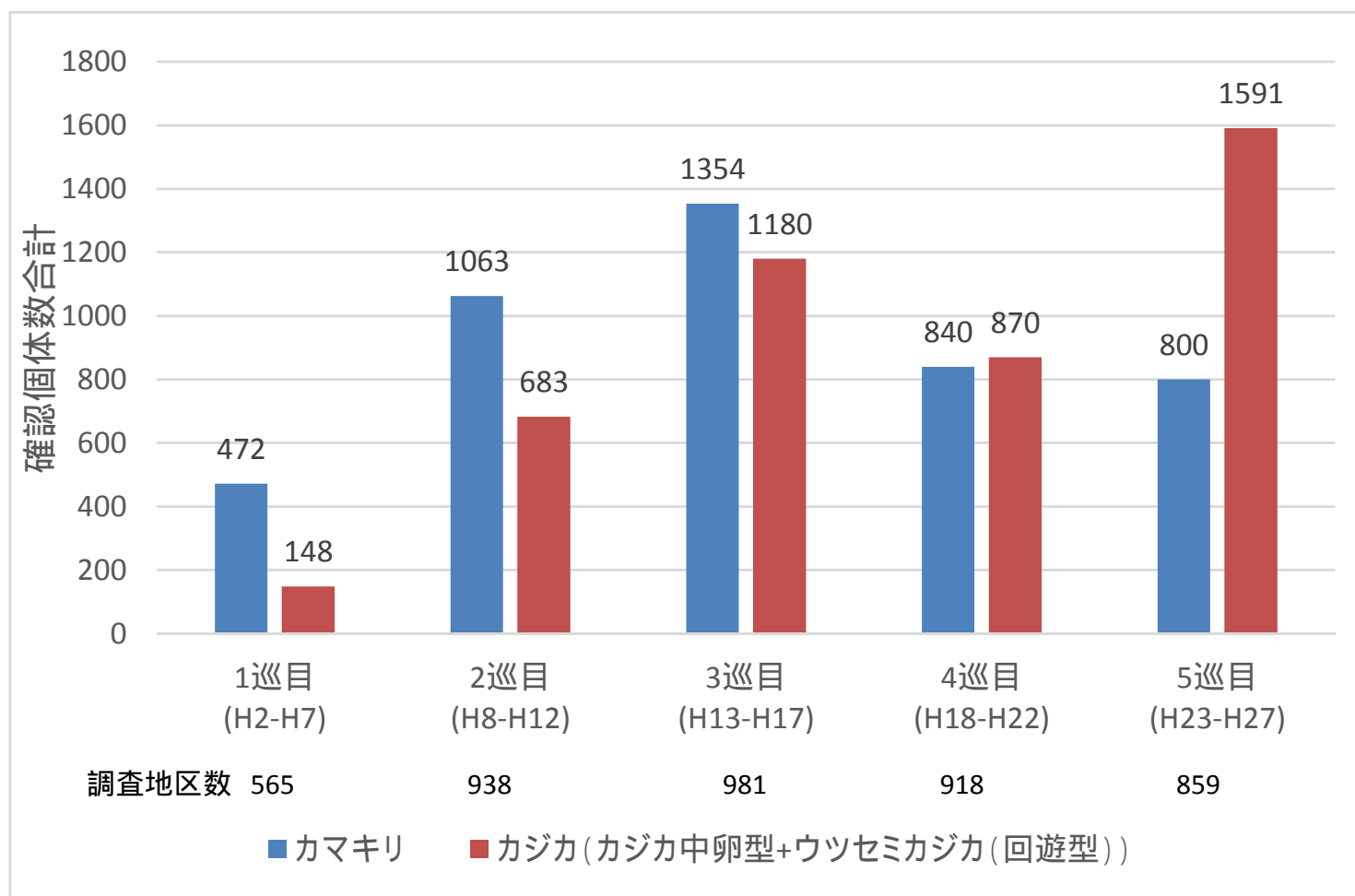


河川水辺の国勢調査データによるマクロ分析

カマキリ、カジカ（魚類指標種）の確認個体数の経年変化

カマキリ、カジカの確認個体数の変遷

- 代表的な回遊魚であるカマキリ、カジカ（中卵型 + ウツセミカジカ（回遊型））の確認個体数は、1～3巡目までは増加しているが、4巡目以降は調査地区数の減少もあり、明確な傾向は確認できない。



1～2巡目のウツセミカジカ（回遊型）には、カジカ小卵型を含む可能性がある

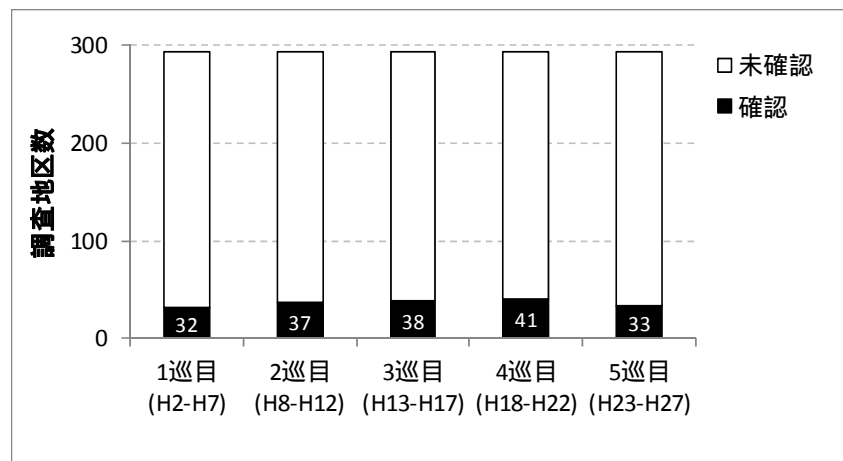
カマキリ、カジカ（魚類指標種）の確認地区数の経年変化

カマキリ、カジカの確認地区数の変遷

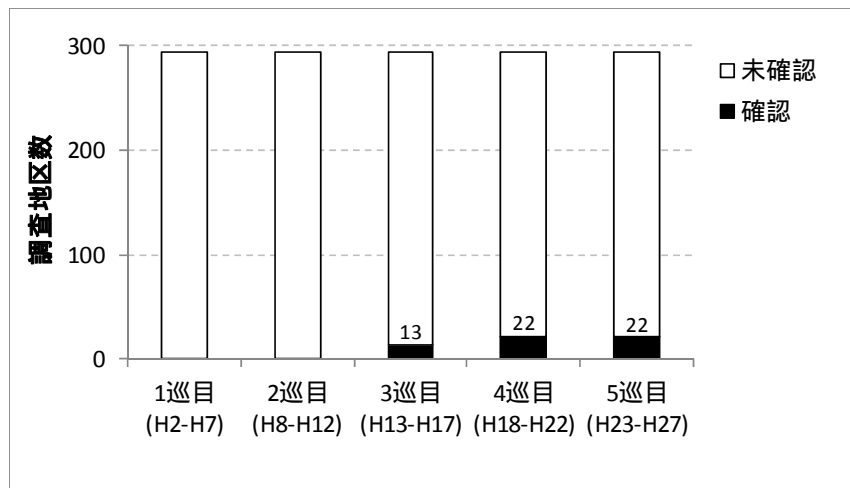
- 1～5巡目全てで魚類調査が実施された295調査地区で見ると、カマキリは概ね安定している。カジカ（中卵型）及びウツセミカジカ（回遊型）については、増加傾向ではあるが、調査地区数が限られていること及び分類体系の変更等の影響に留意する必要がある。



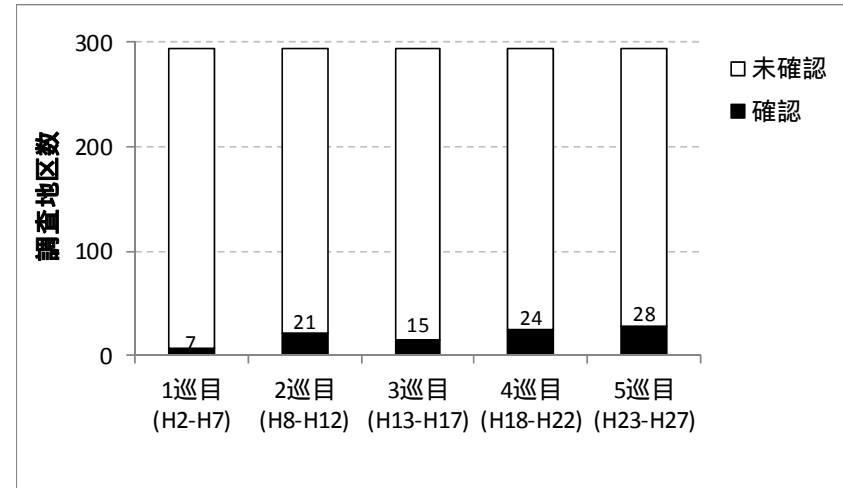
カマキリの確認状況



カジカ中卵型の確認状況



ウツセミカジカ（回遊型）の確認状況



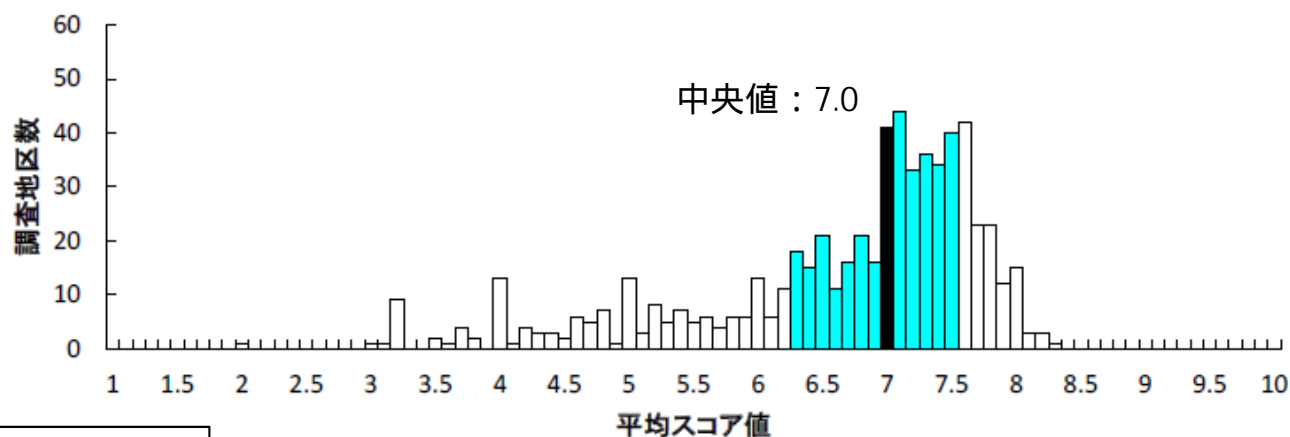
1～2巡目のウツセミカジカ（回遊型）には、カジカ小卵型を含む可能性がある

平均スコア値（平均スコア法）の経年変化

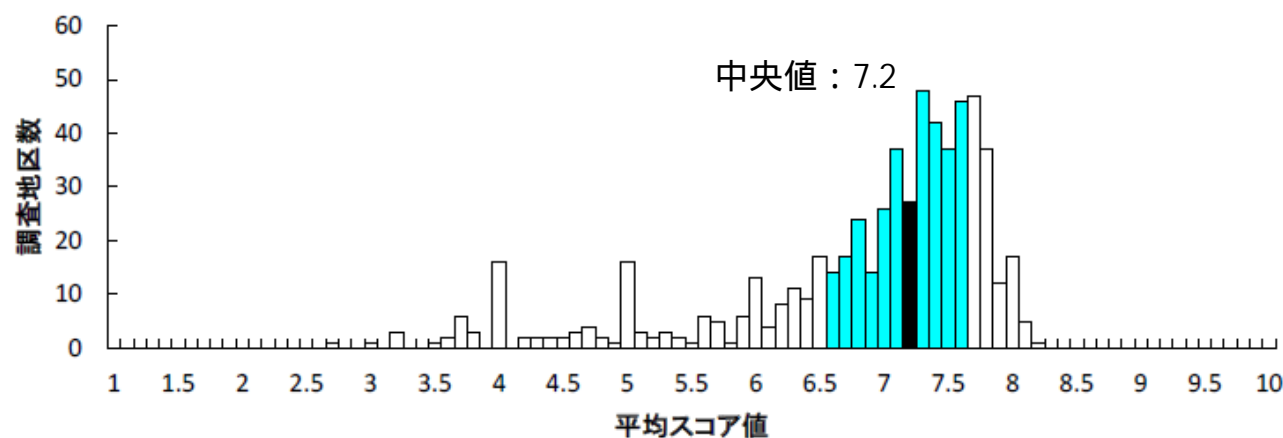
底生動物の平均スコア値の経年変化

- 平均スコア値を4、5巡目で比較すると、中央値がやや増加する傾向が見られる。

4巡目
(H18～H22)

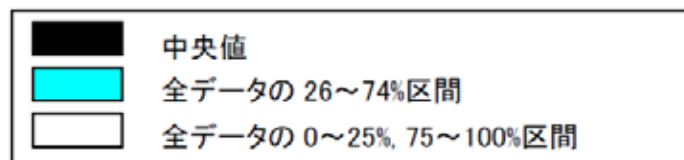


5巡目
(H23～H27)



【平均スコア値】

底生動物の科に対して、水質汚濁への耐忍性の弱い科から強い科へ順に10から1までのスコアを与え、出現した全ての科のスコアの合計値（BMWPスコア値）を科数で割った値。10に近いほど、汚濁の度合いが少ない、自然状態に近い河川環境であり、1に近いほど汚濁の程度が大きい、人為影響が大きい河川環境であることを示す。

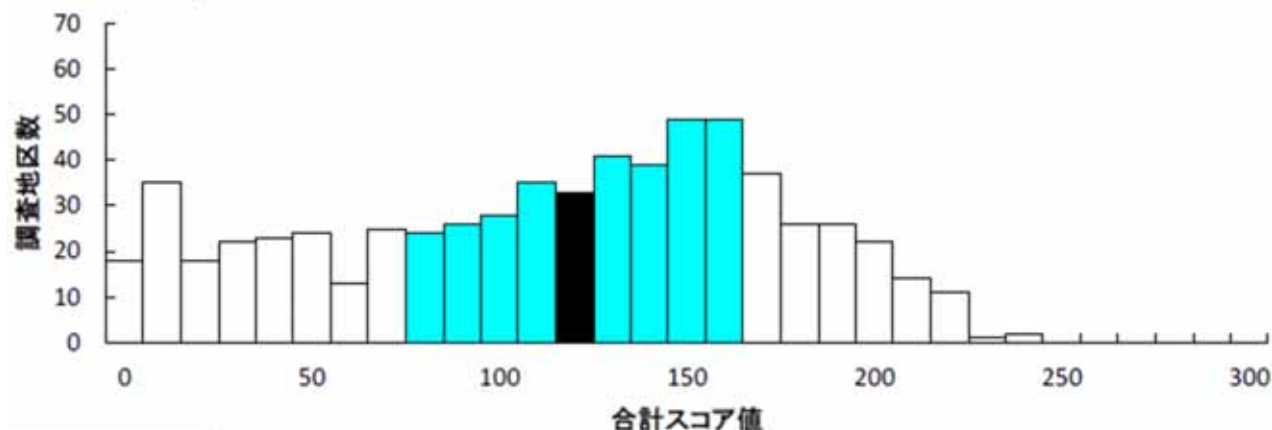


合計スコア値（BMWP法）の経年変化

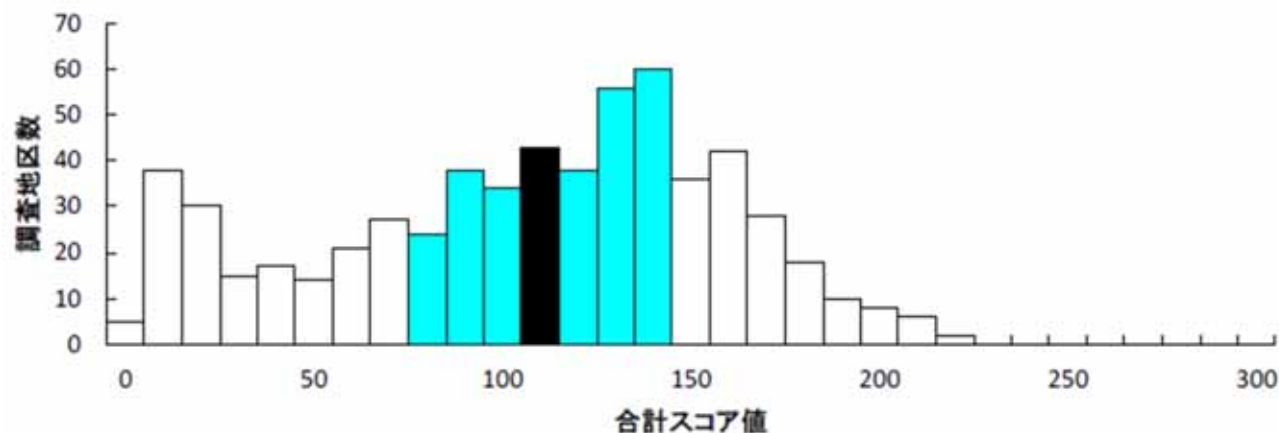
底生動物の合計スコア値の経年変化

- ・合計スコア値を4、5巡目で比較すると、中央値がやや低下する傾向が見られる。

4巡目
(H18～H22)

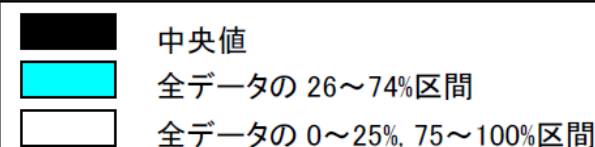


5巡目
(H23～H27)



【合計スコア値】

底生動物の科に対して、水質汚濁への耐忍性の弱い科から強い科へ順に10から1までのスコアを与え、出現した全ての科のスコアを合計した値（BMWPスコア値）。100を超えると良好な水質環境、10を下回ると汚濁の進んだ状態を示す。



前回委員会における指摘を踏まえて、確認個体数や調査地点を固定した確認地区数、BMW P法についてマクロ分析を試みたが、マクロ的な多自然川づくりの効果を十分に把握するまでには至らなかった。



引き続き、河川水辺の国勢調査等のデータ蓄積を進めるとともに、多自然川づくりによる効果と河川水辺の国勢調査などの河川生態に関する調査結果を結び付けることができるような仕組みを検討していくことが必要